

第7回宇宙開発委員会(定例会議)

議 事 次 第

1. 日 時 昭和59年2月29日(水)
午後3時～4時
2. 場 所 宇宙開発委員会会議室
3. 議 題 第9号科学衛星(EXOS-C)の打上げ結果について
4. 資 料 委7-1 第6回宇宙開発委員会(臨時会議)
議事要旨(案)
委7-2 M-3S4号機による第9号科学衛星
(EXOS-C)の打上げ結果の概要

委 7-1

第6回宇宙開発委員会(臨時会議) 議 事 要 旨(案)

1. 日 時 昭和59年2月23日(木) 午前8時30分～9時30分
2. 場 所 宇宙開発委員会会議室
3. 議 題 (1)宇宙開発政策大綱の改訂について
(2)長期ビジョン特別部会の廃止について
4. 資 料 委6-1 第5回宇宙開発委員会(定例会議)
議事要旨(案)
委6-2 宇宙開発政策大綱(案)
委6-3 長期ビジョン特別部会の廃止について(案)
参 考 宇宙開発政策大綱の改訂について

5. 出席者

宇宙開発委員会委員長

“ 委員

“ “

“ “

“ “

関係省庁職員等

科学技術庁研究調整局長

“ 長官官房審議官

文部省学術国際局審議官

通商産業省機械情報産業局次長

運輸大臣官房審議官

運輸省海上保安庁総務部長

岩 動 道 行

吉 識 雅 夫

斎 藤 成 文

井 上 啓次郎

大 塚 茂

福 島 公 夫

三 浦 信

植 木 浩

(代理:柴崎)

児 玉 幸 治

(代理:佐藤)

武 石 章

(代理:沼野)

植 村 香 苗

(代理:谷)

運輸省気象庁総務部長

郵政省電波監理局審議官

“ “ 宇宙通信開発課

建設大臣官房技術参事官

文部省宇宙科学研究所研究協力課

宇宙開発事業団計画管理部計画第1課

事務局

科学技術庁研究調整局調整課長

“ “ 宇宙企画課長

“ “ 宇宙国際課長

“ “ 宇宙開発課長

平 井 清

(代理:中村)

永 野 明

(代理:米田)

増 田 勝 彦

萩 原 浩

(代理:太島)

秋 元 春 雄

佐 藤 孝 司

吉 村 晴 光

清 水 眞 金

森 忠 久

北 村 俊 男

他

6. 議 事

(1) 宇宙開発政策大綱の改訂について

事務局より、資料委6-2について朗読が行われたのち、宇宙開発政策大綱の改訂が決定された。決定ののち、岩 動 委員長より、今後とも、平和利用、自主性の確保、国際協力等の基本方針を念頭に置いて宇宙開発を進めていく旨の発言があった。

(2) 長期ビジョン特別部会の廃止について

事務局より、資料委6-3に基づき説明が行われたのち、原案どおり決定された。

(3) 前回議事要旨の確認

第5回宇宙開発委員会(定例会議)議事要旨案(資料6-1)が確認された。

M-3S-4号機による第9号科学衛星 (EXOS-C) の打上げ結果の概要

昭和 59年 2月
文部省宇宙科学研究所

M-3S-4号機は日本標準日時、昭和59年2月14日17時00分ランチャ設定
上下角69.5度、方位角146度で機上点火により発射された。

各段ロケットの燃焼並びに飛しょうは正常で、第1段並びに第2段の推力方向制御と
衛星打出し前のヒドラジンジェットによる姿勢制御も順調に行われた。

第3段はコマンド電波による点火秒時の修正に従い、発射後380秒、高度357K
mにおいて点火、約56秒間燃焼し、スピン数毎秒約2回で第9号科学衛星EXOS-
Cを衛星軌道に投入した。また、その後、衛星と第3段の分離も順調に行われた。

米国航空宇宙局の各追跡局、スウェーデン・エスレンジ局等は衛星からの電波をそれ
ぞれ下記の時刻に受信した。

局 名	日本標準時
グアム	17時06分40秒
オローラル	17時18分02秒
サンチャゴ	17時43分26秒
バミューダ	18時03分20秒
エスレンジ	18時21分45秒

宇宙開発事業団沖縄追跡管制所は日本標準時18時40分37秒から18時45分1
9秒まで、また、NASAサンチャゴ局は19時22分51秒から19時36分38秒
までEXOS-Cの第1周回の電波を受信した。

軌道にのったEXOS-Cは「おおぞら」(大空、OHZORA)と命名された。

「おおぞら」の国際標識は1984-015Aとなった。

発射時の天候は晴、地上風、西北西2m/秒、気温、12度で光学観測班は発射後3
2秒までロケットを追跡した。

「おおぞら」の軌道要素は次の通りである。

	宇 宙 研		宇宙開発事業団
	計画値	暫定値	決 定 値
近地点高度 (Km)	321	351	354
遠地点高度 (Km)	1054	1065	865
軌道傾斜角 (度)	75	75	74.6
周 期 (分)	99	99	96.9

打上げ後の「おおぞら」は軌道上で正常に作動を続けており国立極地研究所昭和基地局は第4周回を日本標準日時2月14日23時53分00秒から約10分間、また、第5周回を2月15日1時29分40秒から約12分間受信した。

郵政省電波研究所鹿島支所は日本標準日時2月15日3時46分41秒から3時47分58秒まで「おおぞら」の電波を受信した。

内之浦においては2月15日5時21分06秒から第8周回の電波を受信し、その正常な動作を確認した上で地上からの指令電波によりヨーヨーデスピナを展開し、そのスピンを122rpm から6rpm に低下させた。2月16日5時35分36秒から第23周回の電波を受信し、その正常な動作を確認した上で地上から指令電波により姿勢制御の操作を開始した。24周回では、スピン軸と太陽のなす角（太陽角）が前周回での83度から予定どおり91.5度と増大していることを確認し、更に第29周で太陽角が120度となったことを確認した上で15時55分49秒、4枚の太陽電池パドルを展開した。展開後における太陽電池出力も正常である。

今後も姿勢制御操作を続行しながら順次各科学観測器の動作チェックを開始する予定である。

以上M-3S-4号機による第9号科学衛星「EXOS-C」の打上げは射場安全並びに飛行安全をも含め特に問題もなく安全に打上げを実施することができた。

ST-735-1号機打上げ結果の概要

昭和 59年2 月
文部省宇宙科学研究所

M-3S II型ロケットの補助ブースタ分離機構の飛翔試験を主目的としたST-735-1号機は昭和59年1月17日13時00分、上下角64度で発射された。

ロケットは1分26秒で最高高度28Km に達し、3分32秒後に内之浦南東海上に落下した。発射後21秒に補助ブースタは正常に分離され、25秒以後本体の姿勢が若干不安定となったが、この間本体及び補助ブースタの加速度、姿勢、内圧、静圧、本体温度、分離機構部、歪の測定をした。補助ブースタの分離の状態は搭載のテレビカメラによって撮影され、分離距離計によっても正常であったことが確認された。

また、M-3S II型ロケットに搭載予定のデジタル型姿勢制御装置は、全期間にわたって正常に作動し、機能を確認した。

これによりM-3S II型ロケットの開発にむけて分離機構の機能試験、機体圧力分布の計測、デジタル型姿勢制御装置の飛翔試験という本号機の目的は果された。

発射時の天候は晴、地上風、西北西3m /秒、気温、6度で光学観測班は発射後42秒までロケットを追跡した。